



船庄屋跡(梅本家)

船庄屋跡(梅本家)

The ruins of the house of the vessel headman (The Umemoto Family)

江戸時代、木屋瀬には年貢米の集積場である本場(米場)が置かれ、その輸送は権利を持った24艘の川ひらた(川舟)に限られていた。この24艘の管理が船庄屋の仕事である。

梅本家は屋号を油屋^{あぶらや}と称し、江戸時代は酒造業、明治に入り醤油醸造業を営んでいた。

この建物は江戸時代末期の建築で、木屋瀬を代表する町家の一つである。平入りの切妻造り、外壁は大壁造りで、かつて屋根は草葺であった。角座敷は明治5年(1872)の建築である。

The ruins of the house of the vessel headman (The Umemoto Family)

An official collection and storage area for rice used as land tax was placed in Koyanose during the Edo period, and only 24 special vessels with flat bottoms were allowed to handle its transportation. The vessel headman was responsible for managing these 24 vessels.

The Umemoto family, under the style of Aburayayamashimo, was engaged in businesses such as the sake-brewing industry and soy sauce producing industry, in the Edo period and the Meiji period respectively. This building was constructed in the late Edo period and it is one of the merchant houses representing Koyanose. Its features include a gable roof, an entrance situated on the longer side of the building, exterior walls in a style which conceals the pillars. The roof was once thatched with straw. The reception room for distinguished guests was constructed in 1872.



木屋瀬宿:休憩所



旧高崎家(伊馬春部生家)



ひなまつり
長崎県立美術館

ひなまつり
長崎県立美術館



禁煙
NO SMOKING

火気厳禁
NO FIRE

持込み厳禁
市消防局





















雛人形



北九州市指定文化財（建造物）
旧高崎家住宅（伊馬春部生家）の概要

高崎家は屋号を和室五（カヌマ）といわれ、本藩初代河内守シロの七代目高崎四郎八（1795-1865）が分家して創立した家です。

カヌマは寛政4年（1801）のころは、板屋（板組屋）を営み、明治5年（1872）ころには醤油醸造業を営みました。

江戸時代末期の「本屋敷町之図」を見ると、屋敷地は深川川沿いの下まで広がっていたことが分かります。

建物は、小部屋に隔られた通廊から天保6年（1835）の建築と考えられます。構造や建築手法は角の曲い屋形をかためたり、天板を梁方向に入れるなど完成された江戸時代の町家の特徴がよく表れています。

当主作家として活躍した伊馬春部（本名 高崎英彦）は、カヌマの五代目としてこの家に生まれ育ちました。

（明治9年3月31日指定）



主客間の奥の部屋（奥室）の内部の様子



奥室の一角（1948年（天保19年）に改修された部分）の文字が記されています



奥室の奥の部屋（奥室）の内部の様子（1948年）を撮影しています

奥室の奥の部屋（奥室）の内部の様子（1948年）を撮影しています



建物概要

- ・敷地面積 403.13㎡
- ・延床面積 479.73㎡
- 1 階 277.83㎡
- 2 階 201.90㎡



建物の奥の部屋（奥室）の内部の様子（1948年）を撮影しています

奥室の奥の部屋（奥室）の内部の様子（1948年）を撮影しています



奥室の奥の部屋（奥室）の内部の様子（1948年）を撮影しています



奥室の奥の部屋（奥室）の内部の様子（1948年）を撮影しています

奥室の奥の部屋（奥室）の内部の様子（1948年）を撮影しています

奥室の奥の部屋（奥室）の内部の様子（1948年）を撮影しています



奥室の奥の部屋（奥室）の内部の様子（1948年）を撮影しています



奥室の奥の部屋（奥室）の内部の様子（1948年）を撮影しています



奥室の奥の部屋（奥室）の内部の様子（1948年）を撮影しています



奥室の奥の部屋（奥室）の内部の様子（1948年）を撮影しています



奥室の奥の部屋（奥室）の内部の様子（1948年）を撮影しています



禁煙
NO SMOKING

火気厳禁
NO FIRE

持込み厳禁
市消防局

京都
上杉家



石橋家
石橋家







「やさしい昭和の時間」 種 比呂子 著

戦後の不安と混乱のなか、やさしさとユーモアで希望を
届けた昭和のラジオ制作家、伊藤静子。は……
新の復興を志すのひと。
お仲間二に集められた
太平洋の貴重な証人であった。

「やさしい昭和の時間」は、伊藤静子氏の著書で、戦後のラジオ制作家としての活躍と、太平洋戦争の貴重な証人としての経験が記されています。





新築 春 将 主 家
市 街 交 易 所

筑前六宿 開通 400 年
1600 年 10 月 1 日 開通





旧高崎家住宅
(伊勢巻留生家)
駐車時間(時間厳守)
10:00~16:30
北九州市



駐車場

木屋瀬宿のご案内





木屋瀬神社案内

市川瀬神社案内

